

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和元年5月号



【日高振興局】5/15 花の産地「日高」を知って！・・・「花育」活動を実施

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 柑橘類の着花状況調査の結果	
2. 誘殺トラップによるカメムシ消長調査を始める	
3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会が総会・研修会を開催	
II 那賀振興局	3 - 4
1. 第3回関西農業ワールドへ現地研修（紀の川市環境保全型農業グループ）	
2. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の巡回調査	
III 伊都振興局	5
1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～「紀州てまり」の開花調査～	
2. かつらぎ町有機栽培実践グループ総会及び研修会の開催	
IV 有田振興局	6 - 8
1. カンキツ類の着花状況調査を実施	
2. 有田地方生活研究グループ連絡協議会総会開催	
3. カンキツの病害虫と今後の管理に関する研修会の開催	
4. 田んぼの学校（糸我小学校）でアイガモの検卵を実施	
V 日高振興局	9 - 11
1. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い産地づくり】 ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～	
2. 花の産地「日高」を知って！・・・「花育」活動を実施	
3. かんきつに関する講演会を開催	

VI 西牟婁振興局 **12-13**

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】
～ウメ「古城」着果安定対策実証園の収量調査を実施～
2. 茶の樹勢回復のための中切りを実施！
3. 上秋津小学校で「こめの授業」及び田植え体験を実施

VII 東牟婁振興局 **14**

1. 三津ノ地域活性化協議会がエビイモのモデル展示圃を設置
2. 太田のナス組合が栽培出荷検討会を開催

VIII 農林大学校 就農支援センター **15-16**

1. 社会人課程開講
2. ウイークエンド農業塾 農業入門コース（第1班）開講
3. 技術修得研修（第1班）開講

IX 経営支援課（農業革新支援センター） **17**

1. 県4Hクラブ連絡協議会が総会・農村青少年技術交換大会を開催

I 海草振興局

1. 柑橘類の着花状況調査の結果

5月9日、和海地方の柑橘類の着花状況調査を実施した。当日は、JA、農業共済組合、JAグループ和歌山農業振興センター、県等の職員26名が7班に分かれて、温州みかん123園地と中晩柑類（清見、不知火、はっさく）28園地の計151園地の着花量や新梢の発生程度を目視（達観）により調査した。

調査の結果、着花量は園地や樹によるバラツキが見られるものの、総体的に平年より少ない状況であった。また、3月以降気温がやや低く推移したことから、満開期は昨年より5～10日程度遅かったが、平年並であった。

着花量の少ない園地が多く見られたことから、少しでも多く収量を確保できるよう、今回の調査結果をもとに今後の栽培管理指導に役立てていく。



着花状況



調査状況

2. 誘殺トラップによるカメムシ消長調査を始める

今年度も、和海地方総合農政推進協議会病虫害防除対策推進部会（米田和弘部会長（紀美野長町産業課長））では5月10日に誘殺トラップを設置し、5月17日からカメムシ消長調査を始めた。トラップは和歌山市1ヶ所、海南市4ヶ所、紀美野町5ヶ所、合計10ヶ所のスギ・ヒノキ林などに設置した。トラップはルアーと呼ばれるフェロモン剤でチャバネアオカメムシを誘殺するものである。

調査はJAわかやま、JAながみね、農業水産振興課との共同で週1回誘殺数を確認しており、かき・もも研究所や和歌山県柿研究協議会の協力も得ている。

今年3月の調査ではカメムシの越冬量は少なかったが、



カメムシトラップ設置

5月3週目までのカMEMシ量は昨年度と同程度であった。今後、10月まで継続的に調査を続ける予定。

なお、調査結果は海草振興局農林水産振興部のホームページで公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/chiiki/nogyoshinko/kajyukamemushi.html>)

3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会が総会・研修会を開催

5月27日、海南市農村婦人の家において、和海地方生活研究グループ連絡協議会（松田吉恵会長）総会・研修会が開催され、会員22名が出席した。総会では、議案がすべて原案どおりに承認された。

総会后、会員で「フルーツカップケーキ」、「亥の子餅」、「つやぶくさ」を作り、試食をしながら交流を深めた。その後、果樹試験場西村光由副主査研究員から「人の生活に被害を及ぼす獣類の特性と対策」と題した講演が行われた。イノシシ・シカ・サル・アライグマ・ハクビシンなどの特性について、動画を交えた説明があり、会員は興味を持って聴講していた。

農業水産振興課では今後も、地域農産物を使った地産地消の取組み等、農村女性の活動を支援していく。



総会



亥の子餅作り

Ⅱ 那賀振興局

1. 第3回関西農業ワールドへ現地研修 (紀の川市環境保全型農業グループ)

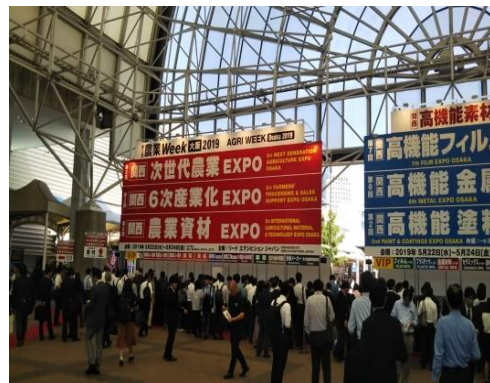
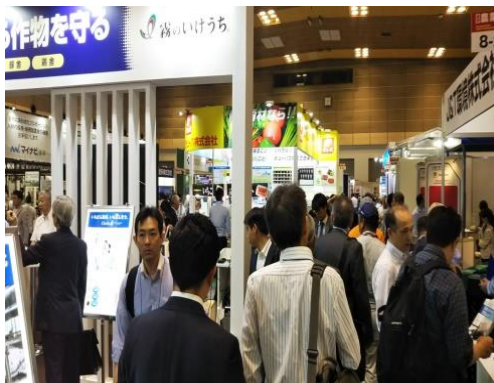
5月23日、紀の川市環境保全型農業グループ（畑敏之会長）では、最新の農業資材や栽培技術を学び、会員の農業経営や活動に活かすことを目的に、第3回関西農業ワールド（会場：インテックス大阪）への現地研修を開催し、会員等10名が参加した。

現地では、スマート農業や植物工場など、最新の農業技術が展示される「次世代農業 EXPO」、農業に関わる資材が一堂に展示される「農業資材 EXPO」、加工・販売するための機器・サービスが集まる「6次産業化 EXPO」の3展があり、会員らは自身の農業経営にあった展示ブースを訪問し、資材の効果や効率的な使用方法などを積極的に担当者に質問していた。また、導入を希望する資材は、サンプル購入を行うなど商談をすすめていた。

会員からは、「普段では見ることができない資材等がまとめて展示されており、見るだけでなく担当者から話を聞くことができ、勉強になった」、「わくわくが止まらなく、知りたいことや聞いてみたいブースがありすぎて時間が足りない」との声が上がった。

なお、今回の研修結果は、会報を通じて全会員へ周知される予定。

今後も農業水産振興課では、会員らの経営や栽培の参考となる研修を提案していく。



第3回関西農業ワールド会場

2. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の巡回調査

「クビアカツヤカミキリ」はモモ、ウメ、サクラなど主にバラ科の樹木を食害し、樹勢を衰弱させ、枯死に至る場合もある害虫であり、隣県の大阪府で被害が確認されている。那賀管内は県内一の桃産地であり、侵入を許せば甚大な被害に繋がる恐れがある。

そこで、5月31日、管内全地域からサクラの群生している地点29地点を定点として那賀地方病虫害防除対策協議会（構成：各市、JA 紀の里、JA グループ和歌山農業振興センター、農業共済組合、県）による巡回調査を行った。

また、管内の小、中学校に対し、侵入防止啓発のチラシを作成・配布し、注意喚起を行うとともに情報収集に努めた。

今後は成虫の発生時期である8月上旬まで、定期的に巡回調査を行う予定である。



サクラ群生地での調査

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】

～「紀州てまり」の開花調査～

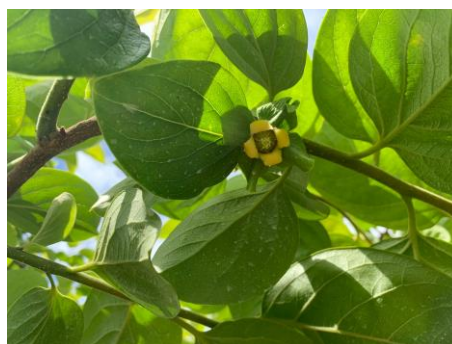
農業水産振興課では、かき・もも研究所で育成された甘柿の新品種「紀州てまり」（品種登録：平成31年4月23日）の現地適応性を調査している。橋本市（2カ所）、かつらぎ町（1カ所）、九度山町（2カ所）の5カ所の柿園において、「紀州てまり」を高接し、生育調査をおこなっており、5月21日に開花状況の調査を実施した。

調査の結果、開花日は園地の標高等の条件によって差がみられ、満開日は開花の早い園地では5月19日に、遅い園地では5月29日になると予想された。また、橋本市高野口町の園地では霜害の影響により、着花が少ない傾向であった。

「紀州てまり」は多くの生産者が苗木を導入し、注目されている品種で、今後、果実品質等の調査を実施し、現地適応性の情報発信等により普及推進に取り組んでいく。



開花調査



「紀州てまり」の花

2. かつらぎ町有機栽培実践グループ総会及び研修会の開催

5月10日、かつらぎ町有機栽培実践グループ（木村義孝会長）がかつらぎ総合文化会館において会員ら21名の出席のもと令和元年度総会を開催した。議案は全て原案どおり可決、承認された。総会後に開催された研修会では、株式会社京都ベジラボの中村英明氏（取締役 商品企画部）から、会社概要をはじめ、有機農産物や特別栽培農産物の自社独自の卸ルートや仕入れ・販売方法などの取組みについて説明があった。

意見交換では、昨年度に出荷した梅の販売方法や消費者の評価などについて熱心に話し合われた。また、今年度の梅の出荷に向けて、時期や規格の打ち合わせもおこなわれた。

農業水産振興課では、今後も同グループの活動を支援していく。



総会

IV 有田振興局

1. カンキツ類の着花状況調査を実施

5月8日、平成31年産カンキツ類の着花状況調査をJAありだ、農業共済組合、JAグループ農業振興センター、近畿農政局和歌山支局及び県担当者の合計31名で行った。

着花や新梢の発生状況を目視（達観）で調査するため、果樹試験場の樹を見本に、調査項目ごとの基準を全員で確認した後、7班に分かれて、温州みかん121園地と中晩柑類（清見、不知火、はっさく）37園地の計158園地を巡回調査した。

調査の結果、新梢の発生は良好で、着花は総じて少なかったが、園地や樹によるバラツキが見られる状況であり、満開期はほぼ平年並み（温州みかんで5月8日～11日頃）と推定した。

この結果を踏まえ、着果量確保に向けた今後の技術対策について、意識統一を行った。



現地での調査前に、果樹試験場で満開日や着花指数の基準について確認



各班で、園地を巡回

2. 有田地方生活研究グループ連絡協議会総会開催

5月14日、令和元年度有田地方生活研究グループ連絡協議会総会が開催され、会員と関係者合わせて32名が出席した。

総会では、平成30年度事業経過と収支決算報告、監査報告、令和元年度事業計画、予算審議を行い、議案どおり承認された。また、役員改選により新役員（榎原光代会長）が決まり、総会は終了した。

その後の研修会では、湯浅醤油有限会社からみそソムリエの宮本結実氏を招き、「発酵食品の様々な活用方法について」と題し、金山寺みそ等の歴史や機能性について講演いただいた。また、みそや金山寺みそをつかったメニュー3品の調理実演もしていただいた。

みそや金山寺みその加工に取り組んでいるグループ員が多いので、熱心に聴講し、試食をしながら質問を盛んにおこなっていた。

農業水産振興課では、今後も生活研究グループの活動支援を行っていく。



櫻原 新会長挨拶



湯浅醤油有限会社 宮本氏による「みそ」の活用方法について説明（実演）

3. カンキツの病害虫と今後の管理に関する研修会の実施

5月15日、就農して間もない農業者を対象に、知識や技術の習得を目的に実施している「アグリビギナー等技術経営研修」を果樹試験場で実施した。

8名の参加があり、環境部の武田副主査研究員、松山研究員から「カンキツの病害虫の生態と防除技術」、栽培部の中地部長から「温州みかんの今後の管理」について講義を受けた。その後、場内ほ場にて着果確保のための芽かきや摘心、結果母枝確保のための予備枝の設定について、実演を交えて説明を受けた。

参加者から、発生の多かったかいよう病やケムシ（クワゴマダラヒトリ）の対策、芽かきを行う樹や枝を見極めるポイント等、多くの質問があった。

今後、カンキツ栽培管理の他、農業機械安全使用等の研修も実施していく予定である。



会議室にて講義



場内ほ場での実習

4. 田んぼの学校（糸我小学校）でアイガモの検卵を実施

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催による「田んぼの学校」（山崎佳彦校長）が19年前から行われている。

「田んぼの学校」は、当時育成会の会長をしていた山崎氏が、学校給食から多くの残飯が出ていることを知り、子どもたちにお米のありがたさ、大切さを伝えるために始めた取組で

ある。

児童は田植え、苗取り、稲刈りなど年間を通じて、コメ作りを体験するとともに、アイガモを水田に放して雑草の発生を少なくするアイガモ農法を実践し、収穫されたお米は、「鴨・米・美」 “カモンベイビー” として、一般の方にも販売されている。

授業の一環として、5月9日にふ卵器への入卵、5月20日にアイガモの卵の生育状況を確認する検卵が実施され、山崎氏、農業水産振興課職員より、ふ化に必要な条件や、受精卵の成長の様子について説明を行った。児童らは興味深い様子で、成長している卵を確認していた。

当課では、今後も農業教育支援を行っていく。



ふ卵器への入卵



検卵方法について説明をする
山崎佳彦氏

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木の内部を食害し、枯死させる外来性の害虫で、平成29年7月にかつらぎ町で成虫1匹が捕獲されたことから、県内への被害拡大が懸念されている。

5月23日、農業水産振興課は、クビアカツヤカミキリの侵入警戒と蔓延防止のため、うめ研究所、林業試験場、みなべ町、JA紀州、日高振興局林務課の担当者らと、みなべ町内のサクラ樹を植栽している20か所を巡回調査を実施したが、存在は確認されなかった。

今後は、日高地方の関係機関でクビアカツヤカミキリ連絡会議を設置し、関係機関との情報共有体制を築くとともに、管内の各市町でも発生状況を調査していく。



フラスや成虫の発生状況を調査



クビアカツヤカミキリ成虫



ひき肉状のフラス（虫フン）

2. 花の産地「日高」を知って！・・・「花育」活動を実施

5月15日、日高地方農業士会（山田裕司会長）と日高地方花き連合会（池田晃会長）の共催で「花育」活動を実施した。

この活動は、子供たちが花に親しみ、花とふれあう機会を通して豊かな心を育くむとともに、当地方が全国有数の花の産地であることを知ってもらおうと毎年行っているもので、今年で11回目となる。両会員らは、花き連合会会員が育てたスターチスや宿根カスミソウ、

カーネーションなど約 3,000 本の切り花を花束にし、管内の小学校 33 校（特別支援学校を含む）に日高地方の花を紹介したパンフレットとともに届けた。

美浜町立松原小学校で行われた贈呈式では、山田会長と池田会長が 5 年生の児童代表に直接花束を手渡し、花に関する講話を行った。山田会長は「花束に入っているスターチスという花は、和歌山県が全国一の産地です。」と話す、児童たちから驚きの声があがった。続いてミニ花束づくりを体験した児童らは、作品を手「いつも遊んでいる弟にプレゼントしたい。」などと笑顔で話していた。池田会長も「日頃の苦労話をしたが、子供たちは興味深そうに聞いてくれた。今日の授業をきっかけに地元の花産地や農業に興味をもってくれば。」と話していた。

贈呈式は、このほか 4 校で行い、両会員が花束を直接児童に手渡した。



贈呈式（美浜町立松原小学校）



ミニ花束づくり体験
（印南町立切目小学校）

3. かんきつに関する講演会を開催

日高川町新果樹研究会（川越安信会長）および J A 紀州の共催で、令和元年度かんきつに関する講演会が 5 月 28 日、日高川町農村環境改善センター大会議室で開催された。本研究会は日高川町内のかんきつ栽培農家が中心となり、果樹の栽培技術向上・生産安定等を目指し、会員相互の研鑽を図るべく、年間を通じ研修会や情報交換などを行っており、農業水産振興課は取組活動への協力を行っている。

講演会には、町内生産者 30 名が出席した。川越会長の挨拶のあと、J A 紀州の近田勝紀営農指導員から「YN 2 6 の特性と栽培管理について」、続いて J A ありだ有田市営農センターの竹中義樹副センター長から「今後のみかん作りについて」と題し、講演があった。

9 月中旬以降から収穫できる「YN 2 6」は、日高管内でも関心がある一方で、裂果や日焼け対策の他、品質向上にかかる栽培技術が求められているため、近田営農指導員からはそれらの対策について重点的に説明があった。また、竹中副センター長からは、近年の温暖化に伴うみかん作りへの対応策の一つとして、剪定や摘果の考え方・技術を詳しい解説があった他、季節商材や管理労力面の観点から注目するこれからの品種についても説明があった。

参加者は写真を撮ったり、解説内容を細かくメモするなど熱心に受講され、関心の高さがうかがえる講演会となった。

次回、本研究会は、7月以降に会員の園地においてみかんの栽培に関する勉強会を予定している。



講演を聴く参加者らで会場はほぼ満員



みかん作りを解説する竹中副センター長

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

～ウメ「古城」着果安定対策実証園の収量調査を実施～

ウメ「古城」は着果が不安定なため、栽培面積が年々減少傾向にあり、面積を維持拡大するためには、着果安定対策の検討と実証を行う必要がある。そこで、平成29年度からうめ研究所と連携して田辺市新庄町に実証園を設け、人工授粉や早期摘果処理が収量に及ぼす影響を調査するとともに、受粉樹3品種（「橙高」、「八郎」、「養青」）の開花時期や着果率を調査して受粉に有望な品種を選抜することになっている。



ウメ「古城」の収穫調査

これまで2月下旬に人工授粉、3月下旬～4月中旬に摘果処理を行い、調査樹毎の着果数を調べてきた。5月20日は調査樹毎に全果実を収穫した後、階級別の重量、100果の重量、100果中のヤニ果発生数を調査した。これらの調査結果はうめ研究所で取りまとめ、後日、生産者、JA紀南営農指導員と検討することになっている。

2. 茶の樹勢回復のための中切りを実施！

5月30日、白浜町市鹿野地区において、生産者、地域おこし協力隊、普及指導員が参加して中切りを実施した。

中切りとは、古くて勢いのない細かい枝を剪除するため太い枝まで切り戻し、勢いのある夏秋梢を発生させて樹勢回復させる剪枝方法である。樹勢の弱い樹は収量・品質ともに低下するため、中切りは重要な作業の1つである。

園地の一部は、昨年に中切りを実施しており、樹勢が回復して新芽の重量・質ともに改善していた。今回は、残っていた樹勢の弱い樹(12a)についても中切りを行った。

今後は、生産者とともに中切りした樹の生育状況を確認しながら、引き続き樹勢回復のための中切りを推進するとともに、中切り後の病虫害防除の重要性を周知していく。



茶樹の中切り作業

3. 上秋津小学校で「こめの授業」及び田植え体験を実施

田辺市立上秋津小学校では、地域の主産業である農業について各学年でテーマを決めて一年を通して学ぼうと、地域の農業者、老人会、JA紀南青年部、公民館、農業水産振興課等関係者が協力して活動計画を組んでいる。今年度は新たに主食の米をテーマに取り組むことになり、5月8日、4年生の児童(23名)を対象に「こめの授業」を実施した。講師は村畑普及指導員が務めた。

最初に日本で品種登録されている米は560種類あることや、稲づくりの年間作業が昔と今ではどう違うのかを比べたり、収穫した米が食卓に並ぶまでの流れについて、クイズを盛り込みながら説明した。児童は真剣な表情でメモを取っていた。質問の時間には「説明以外の害虫や病気はあるの。」など積極的に質問があり、米について興味を持ったようであった。

5月30日には上秋津小学校近くの田んぼを借りて田植えを体験した。田んぼに入ることが初めての児童が多く、最初はためらっていたものの、一度入ってしまえば指先のヌルツとした感触を楽しんでいた。浦光良校長の指導により、児童達は一列に並んで1株ずつ丁寧に苗を植えていた。わずかな時間ではあったが、田植えの大変さを感じてもらえたようだった。

当課では、今後も関係機関と協力しながら、地域農業を軸とした食育を推進していく。



「こめの授業」(5/8)



田植え(5/30)

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 三津ノ地域活性化協議会がエビイモのモデル展示圃を設置

5月8日、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）とJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町でエビイモのモデル展示圃（約5a）を設置した。

この地域は、近くを流れる熊野川と赤木川が台風などによる大雨で氾濫することが多いが、エビイモは耐湿性があり、また、貯蔵性と安定した需要が見込めることから、昨年に引き続き、モデル圃を設置することになった。今年度は4戸（10a）が新たに栽培に取り組んでいる。

今後、新規栽培者をはじめ、地元農業者に品質や収量等の調査結果を周知し、さらなる導入を進めていく。



エビイモの苗



エビイモの定植

2. 太田のナス組合が栽培出荷検討会を開催

5月27日、太田のナス組合（松本安弘会長）は、JAみくまの太田営農センターにおいて、栽培出荷検討会を開催した。生産者、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課併せて11名の出席があった。

検討会では、新規栽培者が防除や栽培管理等について質問し、普及指導員や営農指導員、先輩農家が回答する座談会形式で行われた。

新規栽培者からは、誘引方法や施肥管理、ハダニやアザミウマ等

の防除方法について質問が多く出された。

その後、松本会長の栽培ほ場に移動し、誘引方法や害虫（ハダニ、アザミウマ）の目視での確認方法等について会長から新規栽培者に説明があった。

当課では、引き続き太田のナス組合の活動を支援していく。



栽培出荷検討会



現地講習会

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. 社会人課程開講

5月15日、就農支援センターにおいて社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）が開講した。

本年度は県内から8名が受講し、来年2月14日までの9ヶ月間、講義と実習、農家研修など通して、農業の知識と技術を身につける。

開講式では岩尾所長の挨拶に続いて、研修生一人一人から研修で学びたいことや、将来の抱負等を語った。その後、オリエンテーションと栽培施設等の見学を行った。「明日からの研修が楽しみです」との声も聞かれ、彼らの頑張りに大いに期待したい。

研修生全員が農業への夢を実現できるよう、職員は全力で彼らのサポートを行っていく。



開講式



実習ほ場見学

2. ウィークエンド農業塾 農業入門コース(第1班)開講

ウィークエンド農業塾農業入門コース（第1班）を5月18日に開講した。

本年度の受講者は10名で、7月21日までの週末を利用して計10日間、農業の初歩的な知識や技術などを学ぶ。

開講初日は、和歌山県農業の概要と果樹栽培の基礎の講義の後、ぶどう花穂整形について実習を行った。

研修生には、「東京都から和歌山県へ移り住み、農産物を栽培して農家民泊を始めたい」と考えている方や「両親の後を継ぎ、水稻の他に野菜を栽培して産直へ出荷したい」と考えている方など様々な就農を目指す方がいる。

今後は野菜、花き、果樹などの講義や、栽培管理や収穫等の実習を行う予定である。



果樹栽培の基礎の講義



ぶどう花穂整形

3. 技術修得研修（第1班）開講

5月20日、6名の受講生を迎えて技術修得研修（第1班）が開講した。

研修生は、5月から9月の5ヶ月間、全25日間に講義と実習によって、農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。

午前中の開講式に引き続き、午後は、刈払機の安全使用と草刈り実習およびブドウの整房と誘引を行った。

研修終了後にスムーズに就農できるよう、技術修得研修生は、基本カリキュラムに加え、産地視察や農産物の加工等の特別研修にも参加でき、充実した研修メニューで就農を支援していく。



草刈り機についての説明



ぶどうの整房・誘引の説明

IX 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 県4Hクラブ連絡協議会が総会・農村青少年技術交換大会を開催

5月14日、暖地園芸センター研修館において、和歌山県4Hクラブ連絡協議会（小杉耕平会長）の総会が開催され、会員ら35名が出席した。議案はすべて全て原案どおり可決され、役員改選では、新会長にみなべ梅郷クラブの山本秀平氏が選出された。

総会に続き、農村青少年技術交換大会が行われ、筆記試験や実物鑑定（農業関連資材・病虫害等の写真や実物を見て鑑定）を通じて、参加者で農業に関する知識や技術を競った。採点の結果、辻岡誠之氏（有田川町4Hクラブ）、新谷力氏（印南町4Hクラブ）ら9名が成績優秀者として紹介された。なお、来年3月に開催される全国青年農業者会議には、新谷氏が派遣されることになった。

競技終了後には、平成30年度の全国大会派遣報告や、今年度開催する近畿地域農業青年会議（和歌山開催）の催し検討会が行われた。検討会では、4、5人ずつ6グループに分かれて研修や交流会の内容について意見を出しあい、グループごとに結果を発表した。各グループとも活発な意見、提案が出され、会員間の交流も深まったようであった。

なお、検討結果をもとに次回の近畿地域農業青年会議実行委員会で会議内容を絞り込んでいく。

経営支援課では、4Hクラブで活躍する若手農業者が地域の中核農業者に成長していくよう、今後も会活動を支援していく。



全国農業青年交換大会和歌山コースの報告



近畿地域農業青年会議の催し検討会

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489